

第4章 人と文化を育むまちづくり

⑭ 豊かな人間性を育む教育の充実と環境の整備

細施策 34 就学前の教育・保育の充実と連携の強化

● 人間性を育む教育・保育内容の充実

● 保護者との連携体制づくり



現状と課題

園児の教育・保育に関しては、幼稚園と家庭が協力し、基本的な生活習慣や態度を育て生きる力の基礎を培っています。

幼稚園においては、園児数の減少により「集団としての学び」の確保、保護者会活動における保護者負担の増大が課題です。

また、園児数は減少していますが、気がかりな園児の割合は高く、配慮を必要とする園児が増加傾向にあります。教諭補助員を配置し、発達や状況に応じたきめ細かい保育を実施していますが、その対応は複雑化し、非常に高度な知識と経験が必要となっています。

施設の統廃合や総合化に関しては、現在、南条地域にて幼児教育・保育検討委員会を立ち上げ、少子化や施設の老朽化などの実情に応じた検討を行っています。

保護者会との連携によりミニ運動会などの保育事業を行うことで親子の交流が深まり、園の教育への理解を得ています。さらに、多動児や難病などの気がかりな幼児には教諭補助員を配置し、保護者との連絡を密にしながら、状況に応じたきめ細かい指導を実施しています。

シルバー交流会などでのふれあい遊びやクッキングを通じた地域との交流や、野菜の栽培を通じた食への関心・意欲の育みなど、人間性を育む教育・保育内容の充実に取り組んでいます。

目指すまちの姿

- ◆ 保育と教育が連携して進める取り組みにより、こころ豊かな子どもたちが育つまち
- ◆ 温かな家庭教育の中で、こころ豊かな子どもたちが育つまち

《柱とする施策の指標》

- 保育士、幼稚園教諭の年間研修参加回数

現状値(H25)

2回

H31

4回



計画達成のために取り組むこと

<人間性を育む教育・保育内容の充実>

① 保育士、幼稚園教諭のレベルアップ

レベルアップに向けた様々な研修に、より多くの保育士と幼稚園教諭が参加するよう促します。

② 県からの派遣要請を行う取組

遊びコーディネーターの派遣など、子どもたちが遊びを通して創造性や社会性を育成することができるよう支援します。

③ 幼稚園と保育所の統合化

現在進めている統合化の施策を、一層進めていきます。

<保護者との連携体制づくり>

① 保育所、幼稚園と家庭とのつながり支援の強化

保育士や幼稚園教諭と家庭とのつながりを深める機会の設置を支援します。

② 家庭教育の質を高めるアドバイザーの派遣

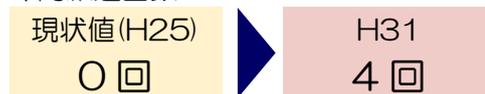
家庭教育アドバイザーを派遣し、保護者や祖父母などを対象とした研修の実施を支援します。

《目指す指標》

- 遊びコーディネーターの派遣回数/年間派遣回数



- 家庭教育アドバイザーの派遣回数促進/年間派遣回数



● 教育内容などの充実

● 特色ある学校づくりの推進



現状と課題

「総合的な学習の時間」などでは各教科との関連を図りながら、自ら学び探求する力を培っていく必要があり、特にグループ学習や習熟度別学習の取り入れ、チームティーチング*や少人数指導などを増加し、きめ細かな学習支援を図っています。

小学校では、平成23年度より外国語活動が必修化されたことに伴い、外国語活動の推進、時代の変化に応じたコミュニケーション力の育成も求められています。

今後、外国語活動では、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の素地を養っていくことが必要です。

食育の推進については、学習田などで農作業を体験して収穫することの喜びを味わい、食育ボランティアと連携した地産地消による給食を通して、生産者への感謝の気持ちを培っています。

また、近年全体の児童数は減少していますが、「不登校」や「気がかりな子」が増えており、その対応は複雑化しているため、非常に高度な知識と経験をもつ職員を配置することが必要です。

小中学生が清掃ボランティアや地域イベントのボランティアスタッフに参加し、「奉仕の精神」を培っています。また、小学生が米作り体験や海の幸を使った「だしじゃこ」作り、「羽根曾踊り」や地元で伝わる太鼓の体験などの伝統文化・伝統芸能に関わることで、郷土の文化・芸能の伝承と郷土の理解、郷土愛を育てています。さらに、中学生の職場体験（キャリアチャレンジ14）では、社会の基本的なルールやマナーが大切であることを実感し、仕事の喜びや楽しさ、厳しさを体感しています。

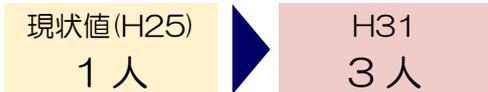
今後は、地域ボランティアの育成と活用を目的に地域力向上推進協議会を立ち上げ、学校とボランティアグループとの意見交換を行うなど地域力の向上と活用を目指します。さらに、その活動の中心的組織として人材育成センターを設立し、ボランティアの募集、登録、育成を行い、保幼小中が希望するボランティアを随時派遣するなどして、地域力を活かした教育活動に寄与し、子ども達の地域愛を育む活動も必要です。

目指すまちの姿

- ◆ 心身ともに健全な児童生徒を育むまち
- ◆ 体験活動を通じ、郷土愛が豊かな子どもを育むまち

《柱とする施策の指標》

- 小学校外国語教育の講師およびボランティアの数



- ボランティア活動の累計参加者数



*チームティーチング：数名の教師がチームを作り、複数学級の生徒を弾力的にグループ分けしながら行う授業の形態。

計画達成のために取り組むこと

<教育内容などの充実>

- ① **小学校外国語活動の推進**
外国語サポート員の配置や国際交流協会との交流を図ります。
- ② **不登校や気がかりな子へ支援**
教育相談員、非常勤講師、心のケア相談員を配置します。

<特色ある学校づくりの推進>

- ① **地域力向上推進協議会の設置**
学校と地域ボランティアグループが、地域力を教育に生かすための意見交換と連絡調整を行います。
- ② **人材育成センターの設立**
郷土芸能、伝承料理、農作業などの経験が豊富な方をボランティアに登録し、保幼小中からの要望に応じてボランティアを派遣します。
- ③ **キャリアチャレンジ14**
職業観の育成のため、中学2年生の職場体験を地元企業で実施します。
- ④ **ボランティア活動の推進**
小中学生の公共施設、河川、海岸の清掃や地域イベントのボランティア活動の参加を推進します。



安全で安心して通える学校づくりの推進

現状と課題

老朽化対策としてすべての小中学校で改築または耐震補強を実施しています。また、児童生徒の安全な通学の確保のため、老朽化したスクールバスの入替、冬期間スクールバス通学区域の拡大、通学路の安全点検や安全安心マップの作成などを、学校・地域との連携のもと実施しています。

児童生徒の栄養管理・食育指導として、学校食材に地場野菜を積極的に取り入れることで、安全安心な給食の提供に努めるとともに、食を通じた地域とのつながりについて、その重要性を伝えています。

今後は、子どもたちがともに学びあえる環境を確保するため、児童生徒数の推移や学校施設の統廃合および統廃合後の学校施設の利活用の検証など、学校規模の適正化の検討を進めることが必要です。併せて、多様化する学習内容に対応した設備・教材の整備が求められます。

また、スクールバス運行の在り方の再検証、必要に応じた計画的なスクールバスの入替、学校や保護者、地域などと連携した通学路の安全対策を進めることが必要です。



目指すまちの姿



◆ みんなが楽しく通い、ともに学びあえる子どもたちが育つまち

《柱とする施策の指標》

- 長期欠席者の割合（欠席者数/全児童・生徒数）



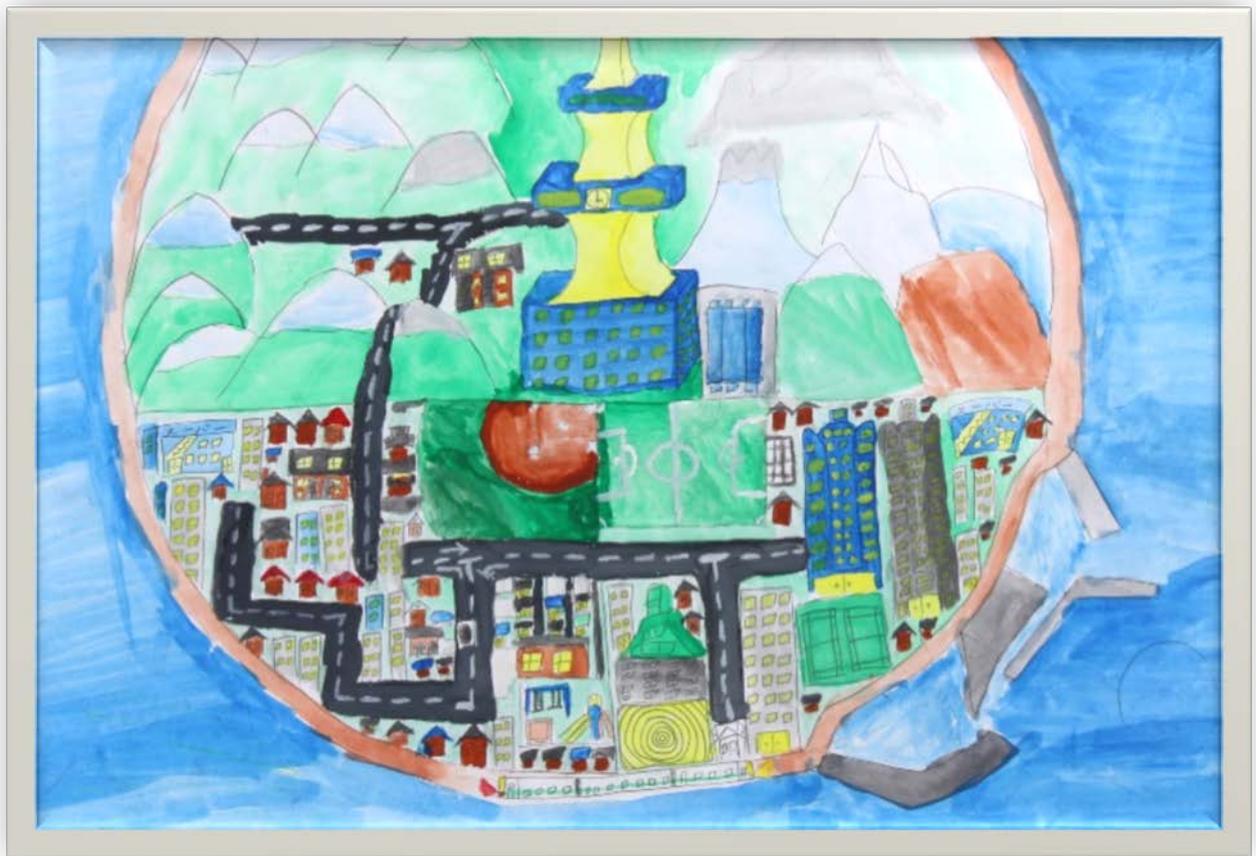
計画達成のために取り組むこと

- ① **学校施設の適正な管理・運営**
管内小中学校再編計画策定に向けた検討を進めます。
- ② **教育環境の整備**
教育のICT化に向けた環境整備を進めます。
- ③ **登下校時の安全確保**
スクールバスの運行および学校関係者、地域住民との連携による見守り運動など安全対策を進めます。

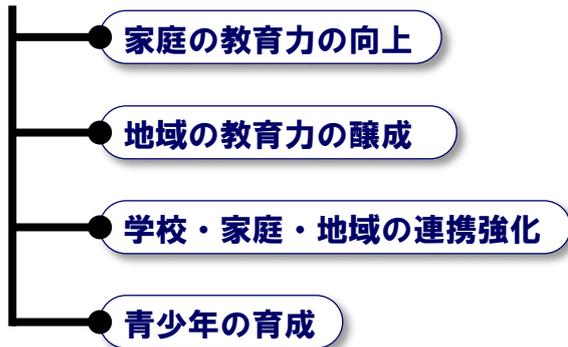


《目指す指標》

- 普通教室へのICT教材の整備配置／配置教室数
 - 地域住民による見守り活動の実施／活動実施回数（述べ回数）
- | | | | |
|----------|-----|----------|------|
| 現状値(H25) | H31 | 現状値(H25) | H31 |
| 24室 | 51室 | 300回 | 350回 |



未来の南越前町（湯尾小学校 5年 村中優介さん）



現状と課題

本町では、「親が持つ子育ての課題や悩みを解消し、親同士が学び合い、親子で体験学習することで、親も子も共に成長すること」を目的に、保育所、幼稚園、小学校において、家庭教育講座を開設しています。毎回多くの保護者の参加を得ており、活発な質疑がなされるなど、大変好評な講座となっており、広範囲にわたって効果が表れています。保護者が集まる機会を活用するなど、開催回数を増やし、保護者に対する学習の機会および情報の提供、講演・ワークショップ・実技指導などを実施することが必要です。

地域における教育活動の充実を図るには、多様な経験と知識を持つ人材の活用が不可欠です。こうした地域の人材が基盤となった子ども会活動やスポーツ少年団活動は、児童生徒の健やかな成長に大きな役割を果たしています。少子化に伴い、子ども会活動が縮小（衰退）する傾向にありますが、子どもの地域活動とそれに携わる人材の育成に努め、地域の教育力の醸成に資する活動を推進することが必要です。

近年、人々の集う機会が減少し、互いに支え合う意識が弱まるなど人間関係が希薄になってきていることから、家庭の孤立化・地域の教育力の低下が問題となっています。学校ごとの「地域・学校協議会」において、家庭・地域・学校が役割と責任を担い、連携・協力して、地域の特性や実情を活かしながら、地域に根ざし開かれた学校づくりを推進しています。また、PTAなどと連携しながら、青少年の良好な環境づくりに取り組んでいます。家庭・学校・地域それぞれが持つ役割を担いつつ、一人ひとりが大切にされる地域コミュニティづくりに向け、互いに連携・協働した取り組みを進めることが必要です。

全国的に問題行動の低年齢化、いじめや不登校、暴力行為などの発生、児童虐待など、子どもが被害者となる事件の発生が問題となっています。本町で年間を通して実施している街頭補導活動や青少年健全育成啓発活動は、青少年の非行防止・犯罪被害の未然防止に大きく貢献しており、近年、補導は発生していません。子ども110番の家や、地域ぐるみの見守り活動を展開・推進しており、さらに見守り活動の一環として町内の7事業所と情報提供を受ける協定を交わしています。また、文化祭や生涯学習講座で「家族ふれあいイベント」を実施し、地域および家族のふれあいを深めています。今後とも、家族や地域、学校との連携により、青少年の健全な育成を阻害する潜在的な要因克服していくことが必要です。

目指すまちの姿

- ◆ **学校・家庭・地域の連携プレーにより、子どもたちへの教育が行き届いたまち**
- ◆ **補導委員と警察、学校が連携し、青少年を犯罪から未然に守るまち**

《柱とする施策の指標》

- 家庭教育講座の開催回数



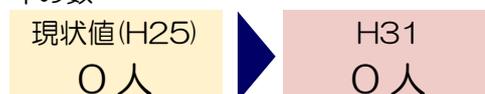
- 児童館などにおける世代間交流の回数



- 学校ボランティアの登録者数



- 補導委員に不良行為で指導された青少年の数



計画達成のために取り組むこと

<家庭の教育力の向上>

① 講座の開講

すべての親子に対して開かれた、基本的な学びや交流の機会の提供を進めます。

② 親の学び合いの推進

先輩保護者との交流、親同士の仲間づくりや語り合いができる場の提供を目指します。



<地域の教育力の醸成>

① ふるさとの良さの再認識支援

お年寄りたちが地域特有の伝承遊びや歴史・文化を子どもたちに伝える活動を支援します。

<学校・家庭・地域の連携強化>

① 学校ボランティアの育成、支援

読み聞かせ、学校行事などのボランティアの登録者を増やすため、広報活動を強化します。

② 学校での地域の人々の活用促進

地域の人々の経験や知識を活かすため、学習や専門性のある活動、子どもの安全を確保する見守り活動などを支援します。（部活動でのコーチ、経験を活かした学習の指導、登下校の見守りなど）

<青少年の育成>

① 補導委員の知識向上

青少年を取り巻く環境についての講習やインターネットに関する講習を開催します。

《目指す指標》

- 補導委員の知識向上／講習会開催数





● 共に学ぶ機会の充実

● 学習指導などの推進

現状と課題

障害の有無に関わらず、子どもたちがともに学ぶことで、授業を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら充実した時間を過ごし、生きる力を身につけています。また、体験交流などを通じて互いに学び合い、誰もが個性を尊重しています。さらに、地域社会の人々とふれあい、ともに活動することで社会性や豊かな人間性の育成へとつながっています。

年齢および能力に応じ、その特性を踏まえた十分な教育が受けられるようにしつつも、可能な限りともに教育が受けられるよう配慮し、教育の内容および方法の改善・充実を図ることが必要です。また、児童生徒と保護者に十分な情報提供を行うとともに、可能な限りその意向を尊重し、障害のある子どもと障害のない子どもが、できる限り同じ場で学ぶことを目指す必要があります。

早期から始まっている支援を就学期に円滑に引継ぐなどの一貫した教育支援により、障害のある子どもの精神的・身体的な能力を可能な限り発達させ、地域の一員としてさまざまな人々と交流し、主体的に社会参加しながら心豊かに成長する取り組みを進めています。また、障害の状態や専門家の意見、学校や地域の状況などを踏まえた総合的観点から、本人・保護者に十分情報提供し、本人・保護者の意見を可能な限り尊重し、合意形成を行ったうえで適切な学習指導を行っています。

問題を抱える児童・生徒が増加する中、今後も一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな教育的支援が必要です。また、個別の教育的ニーズのある子どもに対して、自立と社会参加を見据えて、興味・関心・学習上または生活上の困難などを考慮しつつ、的確な指導を提供することが必要です。

目指すまちの姿

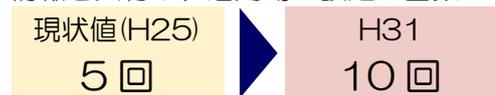
- ◆ 障害のあるなしに関係なく、ともに学び、自然に集いふれあうまち
- ◆ 障害のある子どもたちが、社会的自立を確立しているまち

《柱とする施策の指標》

- 専門カウンセラーを交えた保護者との意見交換の場を設ける年間回数



- 情報を共有し、活用場の設定の回数



計画達成のために取り組むこと

<共に学ぶ機会の充実>

① 保護者と学校との意識確認支援

保護者と学校での意見交換の場を設け、専門カウンセラーも入りながら相互理解を図ることを支援します。

<学習指導などの推進>

① 一貫した支援の仕組みづくり

「子ども子育てファイル」を活用した一貫した指導支援ができるよう、情報を必要に応じて関係機関が共有し活用する場を設けていきます。



15 生涯にわたる学習社会の充実

細施策 39 生涯学習環境の充実

- 生涯学習内容の充実と機会の提供
- 地域の拠点となる公民館活動の推進
- 図書館の利用促進



現状と課題

生涯学習の柱として生涯学習講座を年10回程度開講しており、自主的に学習に取り組む受講者が多く、学習意欲の向上が図られています。特に、園芸講座やパソコン講座は人気が高く、今後もニーズは継続すると思われます。その一方で、人間力発見講座やコミュニケーション講座などで受講者数が減少し、趣味や実務などの講座に偏りつつあります。

生産年齢層や特に若年層の新規受講者が僅かなことが課題であり、また、中高年男性の消極的な姿が多く見られることや河野地区の受講者数が大幅に減少していることが課題です。内容に対する受講者の満足度は高いですが、今後さらに内容充実を図るため、学校教育・防災・農業・福祉・医療などの関係機関との連携を強化し、推進方針や実践方策を検討していくことが必要です。

現在各地区の公民館では、昼夜を問わず趣味の講座や教室、また自主活動のサークルなどが行われ、住民相互の親睦や生きがいづくりに大きな役割を果たしています。

しかし、公民館活動のもうひとつの役割として、公民館を拠点に住民が主体的に地域に参画し、その地域住民の多様なニーズに沿った活動をしていくことも重要です。そのため、今後は施設の運営管理も含めた、公民館の在り方を検討していくことが必要です。

平成23年度に図書館システムを更新し、メールマガジンによる蔵書情報の発信や図書館のホームページを刷新したことで、インターネットによる図書館の予約や相互貸借制度の利用が増加するなど利便性を向上することができました。

現在、図書館の利用者数は横ばいから微減で推移しており、住民の知的好奇心や読書意欲に応える選書、リファレンス対応の充実、移動図書館を実施し、さらなる利用促進を図ることが必要です。また、近年、若い世代の読書離れが懸念されており、子どものうちから読書に親しむ習慣をつくることが重要であり、図書館職員による読み聞かせやブックスタート*などの取り組みを通して、子どもの読書活動を推進していくことが必要です。

目指すまちの姿

- ◆ 住民みんなが積極的に学習意欲を持ち、より豊かな人生を求めるまち
- ◆ 開かれた公民館があり、いつでも住民が集えるまち
- ◆ 子どもが本を好きになり、教養豊かに成長できるまち

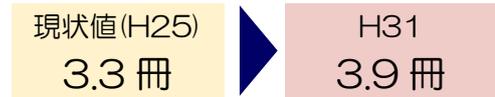
*ブックスタート：絵本と“赤ちゃん絵本を楽しむ体験”をプレゼントする取り組み（赤ちゃん健康診査の会場で実施）

《柱とする施策の指標》

- 生涯学習講座延参加人数



- 人口一人あたりの年間貸出冊数



- 社会教育団体の公民館利用率



計画達成のために取り組むこと

<生涯学習内容の充実と機会の提供>

① 生涯学習講座の充実

若年層を引き付ける講座を開設します。

<地域の拠点となる公民館活動の推進>

① 公民館の利活用

社会教育団体の活動の拠点の場として公民館の利用を推進します。

<図書館の利用促進>

① ブックスタート事業

読書を習慣にするため、乳幼児の頃から本に親しむブックスタート事業を実施します。

② 図書館システム更新

平成30年度（予定）に図書館システムを更新します。

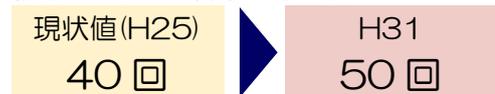


《目指す指標》

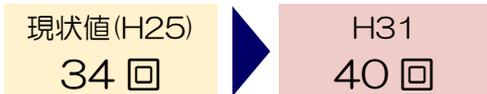
- 図書館の利用促進／
年間来館者数（三館合計）



- 子どもの読書活動の推進／
移動図書館の年間実施回数



- 子どもの読書活動の推進／
読み聞かせ・おはなし会の年間実施回数





生涯スポーツの振興と交流の促進

現状と課題

体育協会などと連携し各種スポーツ大会・教室を開催するとともに、スポーツ団体やスポーツ少年団、老人クラブなどが多種多様なスポーツ活動を行っており、地域における自主的なスポーツ活動が展開されています。また、平成30年の「福井しあわせ元気国体」の開催を踏まえ、競技スポーツの育成をはじめ、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めています。さらに、スポーツ推進委員のリーダー講習会や実技研修会などの実施、指導者や審判員の育成などを行っています。

地域の運動会やスポーツ大会などは継続が困難になっていることから、地域の要望に応じた競技用具の購入、老朽化した競技用具の更新などを計画的に進めることが必要です。また、既存のスポーツ施設には老朽化が進んでいるものがあり、適正に維持管理を行うことが必要です。

目指すまちの姿

◆ 誰もが、いつでも、どこでも、まただれとでも
スポーツに親しめるまち

《柱とする施策の指標》

- ニュースポーツ講習会の参加者数

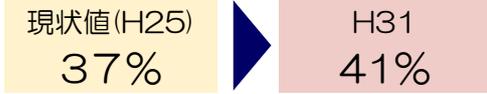


計画達成のために取り組むこと

- ① **スポーツ大会やレクリエーション活動の推進**
各種スポーツ大会の開催および各地区体育大会を支援します。
- ② **スポーツイベントの開催**
花はす早朝マラソン大会など特色あるスポーツイベントを開催します。
- ③ **指導者などの人材育成**
指導者および審判員の養成・育成を支援し、リーダーとなる人材の育成を図ります。
- ④ **生涯スポーツの啓発普及**
スポーツ推進委員などによりニュースポーツの普及を図り、生涯スポーツの啓発を行います。
- ⑤ **競技団体の育成、スポーツ少年団の育成・充実による競技力の向上**
各種スポーツ大会および行事への支援、各種団体への活動を助成します。
- ⑥ **地域で開催するイベントなどへの支援体制の整備**
地域で開催するスポーツ活動およびレクリエーション活動を支援するため、各種競技用具を購入、更新します。
- ⑦ **体育施設の整備、保全**
「福井しあわせ元気国体」に向け桜橋運動公園を整備するとともに、各体育施設の適正な補修および維持管理に努め、地域住民が利用しやすい環境を整備します。

《目指す指標》

- スポーツ少年団の育成充実／町内小学校児童数に対するスポーツ少年団加入者の割合

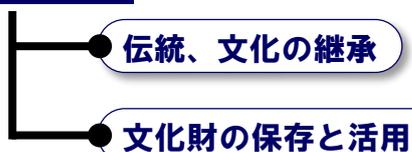


- 競技スポーツの推進／町民スポーツ祭の参加者数



16 歴史文化の継承と芸術文化の振興

細施策 41 歴史・伝統文化の保存と継承



現状と課題

地域固有の優れた伝統文化を文化財として指定するとともに、継承のための後継者育成を行う保存団体などに対して補助金（指定文化財保存費補助金）を交付し支援を行っています。

無形の文化遺産は地域活動のなかで営まれ伝わっていくものであり、その地域独特のものもありますが、反面、コミュニティが弱体化し担い手がいなくなれば簡単に消失する可能性があるため、今後も実態の把握に努めることが必要です。

歴史の道・史跡整備事業として、湯尾峠や西街道（馬借街道）の遊歩道整備、国史跡仙山城跡の「保存管理計画書」の策定などの保存整備に関する事業を行っています。

今庄宿では、歴史的建造物保存推進事業として県指定文化財の指定などにより保護体制を強化するとともに、地域やNPOと連携し地域資源を活かした魅力ある整備を目指すため都市再生整備計画を策定し、社会資本整備総合交付金の事業採択を受けるに至っています。

ふくいの伝統的民家群保存推進地区に指定された北国街道今庄宿地区と朝倉街道上野地区では所有者による民家の改修工事などへの補助事業を実施しています。板取宿の茅葺き民家では「板取宿コミュニティ会議」を設置し、管理体制と有効な活用方策の検討を行っています。

河野の北前船主通りでは右近家住宅西洋館を登録有形文化財に登録するとともに、中村家住宅の重要文化財への指定に向けた建築調査、新たに発見された古文書の調査を実施しています。

ホノケ山トンネル、舞鶴若狭自動車道の開通や、今後、敦賀まで延伸される北陸新幹線により、歴史観光の新たな周遊ルートの設定が可能となるため、「歴旅ルート」の設定や情報発信、拠点間の連携が必要です。

また、「今庄宿プロジェクト」と連携した地域住民との協働による歴史的建造物などの整備・活用や、「北前船歴史空間再生プロジェクト」と連携した歴史観光拠点にふさわしい整備・活用を図ることが必要です。

目指すまちの姿

- ◆ 保存会や集落などが行う活動の活性化、相互に支援する体制の充実により、伝統文化を継承するまち
- ◆ 歴史・文化や景観を守り育て、活動・イベントなどにより活用し、身近に感じることができるまち

《柱とする施策の指標》

- 文化財サポーターの登録数

現状値(H25)

0人



H31
40人

- ふくいの伝統的民家認定数

現状値(H25)

32件



H31
42件

計画達成のために取り組むこと

<伝統、文化の継承>

① 文化財サポーター活動事業

地域の伝統文化を継承している団体や個人を文化財サポーターとして登録し、活動機会や情報などを提供するとともに、サポーターが行う各種活動を支援することにより、文化財の保全・活用および文化財保護思想の普及を図ります。

<文化財の保存と活用>

① 歴史の道・史跡整備事業（杣山城跡）

整備基本計画の策定、発掘など研究調査の実施、城主居館跡の整備事業（基本設計・実施設計）を行います。

② 歴史的建造物保存推進事業（今庄宿伝統的建造物群）

伝建保存対策調査を実施し、伝建地区選定に向けた審議会を設置します。

③ 歴史的建造物保存推進事業（今庄宿伝統的民家群）

福井の伝統的民家普及促進事業（伝統的民家の改修など補助）を行います。

④ 歴史的建造物保存推進事業（北前船主邸・中村家）

防火設備の設置を進めます。

⑤ 今庄宿プロジェクトの推進

都市再生整備計画（H26～H29）に基づく事業の推進主体として地域住民で構成する今庄宿プロジェクト協議会の運営を支援するとともに、事業を協働で進めます。

《目指す指標》

- 都市再生整備計画の推進／事業の進捗率

現状値(H25)

16%



H29

100%



細施策 42 芸術・文化の振興

● 芸術鑑賞会などの開催

● 芸術・文化団体の支援、育成

現状と課題

文化会館は文化・芸術創造の発信拠点施設として、芸術文化舞台発表、舞台公演の鑑賞、作品展示などで利用・活用されています。また自主事業公演などを開催し、住民が優れた芸術・文化公演を鑑賞できる機会の提供に努めています。

今後も、住民の心身ともに豊かな芸術文化創造のまちづくりを推進し、子どもたちへの豊かな情操のかん養を図るため、文化会館のさらなる利用・活用の促進、音楽や演劇、伝統芸能などの優れた芸術鑑賞の機会の提供に努めることが必要です。

芸術・文化団体や公民館サークルは、他地区の発表会や文化祭などへの参加、病院などへの慰問など活発な交流や地域貢献を行っており、各地区が培ってきた歴史や気風、考え方の違いを互いに理解し認め合うことで豊かなまちづくりに繋がっています。これらの団体に対し町が支援を行い、活動の場を提供することで、芸術文化の振興や伝統文化の継承が図られています。それらの活動の場として公民館は、練習・活動の場となり、コミュニティ活動の拠点として役割・機能を果たしています。

住民一人ひとりが主体的に文化・芸術活動を行い、活動の裾野を拡大するとともに、文化・芸術水準の向上や後継者育成を促進することが必要です。また、優れた文化・芸術を楽しむことができる機会を充実し、文化資源を生かしたまちづくりを支援することが必要です。

目指すまちの姿

- ◆ 住民みんなが、心身ともに豊かな芸術文化にふれあえるまち
- ◆ 芸術、文化における世代間交流と伝承が活発なまち

《柱とする施策の指標》

- 文化会館大ホール・ロビー展示などの延べ利用日数

現状値(H25)	H31
111日	135日

- 文化協議会会員数

現状値(H25)	H31
648人	748人



計画達成のために取り組むこと

<芸術鑑賞会などの開催>

① 文化会館の利用促進

文化・芸術創造の発信拠点施設としての文化会館（大ホール・ロビー展示など）の利用・活用を促進します。

② 自主事業公演の開催

魅力ある文化・舞台芸術鑑賞公演を開催します。

<芸術・文化団体の支援、育成>

① 文化協議会会員の増強

文化協議会の啓発活動と積極的な勧誘を行います。

《目指す指標》

- 自主事業公演の開催／
集客率（総客席数に対する入場者数割合）

現状値(H25)

76%



H31

82%

